

(仮称) 対馬市市民基本条例(案)における地域との意見交換会

日 時：8月24日(水) 午後1時30分から午後3時まで

場 所：上県地区公民館

出席人数：76人

(市民：58人、検討委員会委員：11名、ワーキング部会員：3名、事務局：4名)

検討委員会 加留部委員長の挨拶後、事務局より(仮称)対馬市市民基本条例(案)の概要説明を行い、その後、意見の集約を行った。

《参加者からの意見・質疑》

- 現在までの行政の運営は全て地方自治法をはじめ、各種規則に基づき完全に施行されているが、今回の条例(案)はこれらの良い所取りとしか思えない。

(事務局) この条例を策定する根底に、自分たちの地域(自治体)のことは自らで、という考えがある。対馬市には他にも様々な条例があるが、その条例の最上位となるのが今回の(案)なのでいろいろな懸念が含まれており、そのように見える部分もあるということで理解いただきたい。

- 質問にならないと思いますが、最初(委員長の挨拶)に、『今まではごまかしてきたしこれからも5年先まではごまかしもきくだろうけど、10年、15年先はごまかしてはいけない』とおっしゃっていましたが、「ごまかす」あるいは「ごまかし」が何なのか、何だったのか、具体的に教えていただきたいと思います。

(委員長) 例えば「ごまかし」の例として、地域住民の高齢化だけでなく自治体を支える行政職員の高齢化があげられる。福岡のある自治体の話をすると、職員が300名いるがその内100名が50代、20名が20代という構成になっている。5年後には50代の職員は半数残っているが、10年後にはその100名は退職していなくなる。若手職員を採用しても、その職員は“ゆとり世代”であり、今までの職員とは価値観が異なっている。今まで何とかしてくれていた職員がいなくなり、今までのような対応ができなくなる。50代がいなくなることにより、その下の世代の心の準備ができないまま急速に出世し、心身の病気も心配されるようになる。結局は自分でしなければならないことに気づかされることになるため、その前に今回の条例が必要であり、地域でできることは地域で取り組んでいく体制が必要である。行政側が対応できない時期がくる。

《条例(案)に対する意見等》

- 第30条(対馬らしさの追求)について、対馬の特色を活かしたまちづくりにおいて、雇用(若者)を考えてもらいたい。
- 今日の意見交換会に将来を背負う若い人の姿が見当たらないのが寂しい。

- 対馬の活性化のためには、もっと若い人たちに参加を呼びかけ若い力で進めてほしい。
- 今日の参加は高齢者が多くて、若者がもう少し出席すれば良かったと思います。
- 高齢者の理解を得るのは難しいと思う。解りやすい表現をお願いしたい。
- 市の若い職員を育成してほしい。
- 条例をかかげる事は良い事ですが、市の職員自ら行動に移すべきです。技能の優れた人材を多く採用してください。
- 廃校の利活用は島外に向けても発信し、子供の教育、老後生活に活用する方法を考慮されてはどうか。
- 対馬人の昔ながらの足ひっぱりをなくし、しっかりとしたリーダーの下、皆で支え協働の島づくりに力を注ぐことが必要だと思う。本日も各団体のリーダーが来ているので、リーダーを支え、良いリーダーを育ててください。
- 65歳以上の人のうち、ホームページは90%位は見られない状態だと思う。
- 10～20年後の自分の将来を不安に思った。
- 島内に若い人が就職できる職場を作ってほしい。
- ①日本一豊かな自然の対馬を目指す事(観光にも役立つ)、②廃校を利用して自然豊かなフリースクールを立ち上げ(不登校の生徒を対象に)、③①を目指すためには猪の対策を急ぐ事
- 対馬市になってから、特に上県町は寂しくなりました。なんとかならないでしょうか。
- 議会、行政がんばってください。

《具体的な要望》

- 現在、家敷地内に猪、鹿が出没する現況です。子供の猪に襲われた人もいて、人命に関わる危険な状態です。緊急の対策がほしいと思います。
- 国道県道、特に上県に入ると急に悪い。道路をまたぐ雑木(杉・桧)の枝を切ってください。

